

全国協議会 ニュース

2023年2月1日発行 第366号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KTビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marlow.or.jp E-Mail:office@marlow.or.jp

全国協議会第12期役員選考告示

全国協議会の第12期役員選考に関して、田中重勝理事長が5人の役員選考委員を委嘱しました。第1回役員選考委員会が2022年12月16日（金）に開催され、互選により野村正満氏が委員長に選出されました。「役員選考規程」に基づき第12期役員を選考を行いますので、下記の通り告示します。

東京マラソン2023チャリティランナーの応援をよろしくお祈いします!

全国協議会は東京マラソン2023チャリティの寄付先団体に選定されています。今回、新たに応募して下さったランナーの中には、ドナー経験者、ご家族・ご友人が骨髄移植経験者という方もいらっしゃいます。その中のお一人の応募理由を紹介いたします。

「私の妻はMDS(骨髄異形成症候群)を発症し、2年ほど前に骨髄移植をしました。運よく骨髄移植ができ、順調に回復しています。いままさに骨髄移植を必要とされている方々の役に立てればと思い御団体を選択しました。走ることが大好きな妻に代わって東京マラソンを走りたいです」

他にも、コロナ禍のため東京マラソン2020には参加できなかったチャリティランナーの方も多数出走します。3月5日（日）の大会当日はランナーの皆さんの晴れやかなフィニッシュを願い、応援をよろしくお祈いします!

大会詳細は「東京マラソン2023ウェブサイト(チャリティページ)」をご覧ください。

<https://www.marathon.tokyo/charity/>

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(1月13日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2022年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,072	2,751	543,694	914,450
患者登録者数	184	187	1,685	65,688
移植例数	79 (27)	68 (19)	—	27,283 (1,764)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■12月の区別ドナー登録者数
献血ルーム/610人、献血併行型集団登録者/2,097人、集団登録者/0人、その他/44人

■12月の年齢別ドナー登録者数(現在数)
10代 3,760人/20代 87,369人/30代 135,972人
40代 218,075人/50代 98,518人

■12月の20歳未満の登録者307人

■12月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数:1,713件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

2023年1月16日
役員選考委員会委員長 野村正満

特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
第12期 役員選考のための第1回告示

1. 役員選考委員会

委員長：野村正満 委員：大谷貴子、三瓶和義、水谷久美、上江洲富夫

2. 役員の任期

2023年7月1日～2025年6月30日

3. 役員の種別と員数

会長	1名	理事の地区定数	
副会長	3名	北海道	1名
理事	14名	東北	1名
(正会員の推薦を要する理事)		関東甲信越	2名
全国区3名、地区8名、		東海北陸	1名
推薦を要しない公募理事3名)		近畿	1名
監事	2名	中四国	1名
		九州	1名
			計 8名

4. 役員選考日程

第1回告示 2023年1月16日(月) ホームページに役員選考告示を掲載(全国協議会ニュース2月号にも掲載)
 * 役員の推薦書、公募理事の立候補届などの配布
 役員推薦書、立候補届の受付開始 2023年1月23日(月)
 役員推薦書、立候補届の締め切り 2023年3月1日(水) 必着
 第2回告示 2023年3月20日(月) ホームページに役員選考結果を掲載(全国協議会ニュース4月号にも掲載)
 全国骨髄バンク推進連絡協議会総会 2023年5月28日(日) 役員選任

5. 認定特定非営利活動法人の役員の場合について

特定非営利活動促進法の定めにより、次のいずれかに該当する方は、役員に就くことはできません(以下、特定非営利活動促進法より)。

第二十條(役員欠格事由)
次の各号のいずれかに該当する者は、特定非営利活動法人の役員になることができない。

- 一 成年被後見人又は被保護人
- 二 破産者で復権を得ないもの
- 三 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わった日又はその執行を受けることがなくなった日から二年を経過しない者
- 四 この法律若しくは暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律の規定(同法第三十二条の三第七項及び第三十二条の十一第一項の規定を除く。法第四十七条第一号ハにおいて同じ。)に違反したことにより、又は刑法第二百四條【傷害】、第二百六條【傷害及び傷害致死の現場助勢】、第二百八條【暴行】、第二百八條の二【凶器準備集合及び結集】、第二百二十二條【脅迫】若しくは第二百四十七條【背任】の罪若しくは暴力行為等処罰に関する法律の罪を犯したことにより、罰金の刑に処せられ、その執行を終わった日又はその執行を受けることがなくなった日から二年を経過しない者

五 暴力団の構成員等
六 法第四十三條の規定により設立の認証を取り消された特定非営利活動法人の解散当時の役員で、設立の認証を取り消された日から五年を経過しない者

第二十一條(役員親族等の排除)
役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が一人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員総数の三分の一を超えて含ま

6. 役員推薦書、立候補届の注意事項

- (1) 必ず所定の届出書に記入して提出してください。届出書は下記の役員選考委員会事務局に請求するか、ホームページからダウンロードしてください。
- (2) 届出書に押印のうえ推薦書、立候補届を必ず簡易書留など追跡ができる方法で送付してください。
- (3) 役員推薦に必要な推薦者(団体)の数は、会長3団体以上、副会長2団体以上、監事1団体以上、全国区推薦理事1団体以上、地区推薦理事 地区内1団体以上です。公募理事に推薦者は不要です。
- (4) 役員推薦にあたっては、原則として候補者本人の内諾を得たうえで推薦してください。但し、会長、副会長、監事については内諾がなくても受け付けます。

<連絡先・書類送付先> 役員選考委員会事務局
〒101-0031 千代田区東神田1-3-4 KTビル3階 全国骨髄バンク推進連絡協議会内

「保健文化賞を受賞しました～埼玉骨髄バンク推進連絡会～」



第一生命保険株式会社が主催する第74回「保健文化賞」の表彰式が、昨年12月13日(火)に都内の明治記念館で行われ、埼玉骨髄バンク推進連絡会を含む10団体と5人の個人が表彰されました。

■「保健文化賞」とは

「保健文化賞」は、戦後の衛生環境が悪化する中で、保健衛生向上のために役に立ちたいとの思いから1950年に主催者が創設したもので、厚生労働省や朝日新聞、NHKが後援するほか、天皇陛下への拜謁もセットされた由緒ある賞です。

2022年度までの受賞者数は、722団体、個人372人、合わせて1,094件のほり、骨髄バンク関係者では第60回の大谷貴子さん、第71回の石川県「いしかわ骨髄バンク推進・はとの会」、第72回の「高知県骨髄バンク推進協議会」があります。

■ 応募の動機と推薦

今回の応募は、当会役員・谷川さんのご家族の方からの勧めによります。

応募には埼玉県の推薦が必要で、昨年3月に当会の活動の詳細を記載した応募資料を県に提出し、県からは当会の活動を高く評価する推薦文を添えていただきました。この推薦文が受賞決定の大きな要因になったと思われ、感謝に堪えません。

■ 表彰式と拝謁

表彰式は昨年12月13日(火)の17時から行われ、受賞者には、厚生労働大臣から表彰状、主催者から感謝状と賞金(団体200万円、個人100万円)、朝日新聞・NHKの厚生文化事業団からは記念品が贈呈され(写真①)、その後記念写真(写真②)を撮って終了でした。通常は、終了後に祝賀会があるそうですが、コロナ禍のため

行われませんでした(残念!)

翌14日(水)の夕刻、受賞者は皇居に招かれ、長和殿前で記念撮影。その後、皇居内を見学し、17時ごろ御所に移って陛下からお祝いと激励の言葉をいただき、さらに受賞者個々への声掛けがありました。

「骨髄バンクはいかがですか」の陛下の問いに、コロナ禍で減少したドナー登録も回復しつつあることをお伝えしました。

終了後、どら焼き風の菊の紋の入ったお菓子をお土産に頂き帰宅しました。大谷さんの時は、金平糖だったことを思い出しました。

■ 賞金200万円の使途

賞金の使途について、1月の定例会で私から「バンクの発展と患者支援に使用する特別会計」扱いの提案を行い、5月の総会までに結論を出すことになりました。

「保健文化賞」に関しては、主催者(第一生命)のホームページに詳細がありますので、参照してください。

(埼玉骨髄バンク推進連絡会 会長 笠原慶一)

都道府県骨髄バンク担当者開催

12月16日(金)日本骨髄バンク主催の都道府県担当者会議がWeb開催され、全国の自治体の骨髄バンク担当者が参加しました。厚労省移植医療対策室西嶋康浩室長の挨拶では「若年層ドナー登録者の確保」「ドナー休暇・助成制度の導入促進」「骨髄バンク推進連絡協議会の設置・開催」をお願いしたいとあり、ドナー休暇は産業振興局と連携し推進、ドナー助成制度は実施県の具体例を挙げ、県の事業として取り組んでほしいなど、掘り下げた話がありました。日本骨髄バンクからの報告と要請の概要をお知らせします。

①骨髄バンクの現状と課題：2021年度の移植率は55.4%に留まっている。コーディネイト期間の長さを理由に骨髄バンクを介した移植をやめることが有ってはいけな。若年ドナー登録者獲得のため学校での登録会・語りべ講演会の開催、応諾率向上のために提供しやすい環境整備が必要。ド

ナー登録者の転居先確認のためSMSの利用、日赤の協力を得て変更手続きの促進を行っている。

②ドナー休暇・公欠の推進：導入した企業には社会貢献のPRが出来るなどのメリットがある。福岡県では骨髄ドナー公欠制度の導入を大学に働きかけている。文書送付後に電話協議を行い、県立大学3校すべてが導入。

③骨髄バンク推進連絡協議会の現状：関係機関の情報交換や課題、事業推進について協議するため設置・開催してほしい。

④若年層ドナー登録の推進：学校での登録会が効果的である。献血を行っているすべての学校での併行登録会開催に協力願いたい。

⑤ドナー登録説明員養成講座が20都道府県で実施されている。他県でも募集に力を貸してほしい。

⑥アイデアフェスについて：昨年の全国大会で行ったアイデアフェスのポ

スターを作成した。高校、大学などでポスターを掲示してほしい。

令和5年度政府予算案

令和5年度政府予算案で、厚生労働省「造血幹細胞移植対策費」として、前年度と同額の24億が計上されました。造血幹細胞の適切な提供の推進を図るため、若年層の骨髄等ドナー登録者や臍帯血の確保、コーディネート期間短縮の取組、移植患者のフォローアップ体制の構築を行うとともに骨髄バンク・臍帯血バンクの安定的な運営を支援するための補助金です。

①骨髄バンク運営費4.9億円 ②骨髄データバンク登録費(HLA検査、データ登録・管理)6.5億円 ③臍帯血バンク運営費6.2億円 ④患者・ドナー情報登録支援事業7700万円 ⑤造血幹細胞提供支援機関事業1.9億円 ⑥造血幹細胞移植医療体制整備事業4.1億円

その他、移植医療研究推進費として1.6億円を計上。

医療講演会「未来につなぐ 命と心のバトン」開催



12月24日(土)山形市食糧会館にて、「2022 医療講演会『未来につなぐ 命と心のバトン』」を開催することが出来ました。

2019年11月の運営委員会から会議をスタートし、25周年記念誌の発行、記念式典&医療講演会、「いのちの輝き展」リレー展も同時開催、さらに、東北ブロックセミナーもコラボしたらどうかなど、話し合ってきました。

具体的な話し合いを進めた矢先、新型コロナウイルスのニュース…当初、他山の石としか思えなかったのですが、日本中が…山形県でも感染者が多数出てきました。25周年記念「いのちの贈り物」を2022年1月1日に発行し、2月19日に記念式典&医療講演会「多様化する造血細胞移植」を開催するため準備を進めていましたが、またも全

国で新型コロナ感染拡大の報道。結局、記念誌を会員や多くの皆さんに発送することで涙を吞みました。

でも、あきらめきれない私は、5月の「2022 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」をZoomで拝見し、どのような状況でも患者さんは闘っている。生きたいと待っているあの子の笑顔が脳裏を離れなくなりました。救える手立てがあるのにと。

6月5日の総会で、医療講演会「未来につなぐ 命と心のバトン」の開催を承認いただきました。しかし開催日をクリスマスイブの日に設定したことで、多くの方々から「なんでイブの日？」とお叱りをいただきました。

今年度は普及啓発に力を入れようと考え、語り部事業を創設し高等学校、企業、ライオンズクラブさん等で、骨髄提供者、元患者家族が講演させていただきました。

そして、一大イベントとして位置付けた医療講演会、夏になったら、秋には…と思いつながりながら準備をする私たちをあざ笑うように、コロナ感染は収まり

ません。むしろ、昨年より桁違いの数字が毎日、ニュース速報で流れます。でも、私の頭には「中止」の2文字は浮かびませんでした。

ところが何ということでしょう。空は晴れ渡っていますが、前夜からの大雪で当日の山形市積雪50cm。各地の参加申し込みをされた多くの皆さんからキャンセルの連絡がありました。悩みましたが開催することに決定。現地参加51人でした。

当日は、山形学院高等学校の先生2人、生徒さん6人がボランティアとして参加してくださいました。青年会議所ブロック協議会の皆さんがZoomなどの機材を担当し、参加できなかった方には後日見逃し配信をご覧いただけるようにいたしました。

反省すべき点は、開催日、広報の仕方の一考が必要と思いました。

また、東北ブロックセミナーを午前中に開催しましたが、参加者が少なく、クリスマスイブに日程設定したことが失敗だったと、大いに反省しているところです。

(骨髄バンクを支援するやまがたの会
会長 小野寺南波子)

シリーズ

造血幹細胞移植医療を思う

造血細胞移植看護に長く携われ、移植患者さんに寄り添い、また、後継者の育成にも尽力された尾上さんに多様な視点から移植医療について3回にわたってご寄稿いただきます。

第1回

医療従事者としての関わりを振り返って



尾上裕子 (おがみ ゆうこ)

元東京大学医科学研究所附属病院看護部長
血液内科部長を経て看護部長へ
全国移植看護ネットワークを有志と共に立ち上げ代表を務めた
2020年度造血細胞移植学会功労賞受賞

もう40年以上も前の事です。「白血病は治るんだよ」という、血液内科医師との衝撃的な会話の5年後に私は移植病棟に勤務異動ができていました。当時、骨髄移植は非常に清浄度の高

い無菌室と呼ばれる個室にて行われ、患者さんはその中で、たった一人で頑張っていました。医師が入室するのは週にたった一度だけ(施設によりその基準は異なりましたが)、そのため移植ができるのは30代位までとさえ言われていたほどです。大量の化学療法、その後の骨髄液の移植、そして白血球が増えてくるまでの3~4週間を頑張り抜くのですから、非常に辛い治療であったかと思えます。

しかし、完全無菌室にしくなくても感染予防は可能であり、むしろその方がタイムリーな患者ケアが出来るので、完全無菌は必要ではなく、呼称も移植病室へと変わりました。確か1998年頃だったかと思えます。私自身も米国シアトルの病院見学研修に行き実感してきましたが、これは正に「無菌管理の効率化」そのものであったかと思えます。医師も看護師も皆、必要な時に入室して患者さんのケアをする。文字通り「傍にあって支えたい」という看

護師の思いが実践出来るようになったのです。

身体を動かすのも辛い時には排泄介助はもちろん、清拭や内服の介助、そして退屈そうな時には外の話題も伝えてあげる、という当たり前のケアが普通に出来る事がとても嬉しかったのを覚えています。

また、移植看護の中で一番嬉しかった事は、白血球が500になった事を患者さんに知らせる役割をさせてもらった時でした。患者さんと一緒に喜んだ事、「よく頑張ったね」と心から褒めてあげて、自分自身もとても誇らしい気持ちになったものでした。

移植医療は、感染管理が第一に求められるため、その対策や医療者の行動がとても大事ですが、その一方で骨髄を提供して下さったドナーさんを含めた多くの人々のチームワークで成り立っている医療である事を改めて実感しています。

ブロックセミナー開催 ①

全国協議会が地域ごとに開催しているブロックセミナーの今年度最初は東北地区で開催されました。

12月24日(土)、山形市食糧会館において東北地区ブロックセミナーを開催しました。暴風雪でJRが運休する中での開催となり、3団体のみ参加で若干寂しいセミナーになりましたが、各団体とも、コロナ禍でも工夫を

凝らして活動を行なっていることが報告されました。

山形では昨年の設立25周年記念誌の発行や登録説明員の研修、登録会や「マモのメッセージ展」など、新会員も迎え積極的に活動しています。

石巻では長年にわたって協力体制ができていた石巻イオンでの「いのちの輝き展」の企画などの活動も報告され、マネージャーの転勤などで途切れがちになる私たち秋田の会にとって大きな

ヒントをいただきました。

また、やまがたの会の副会長でもある県議の方から、日赤が登録や普及啓発の主体となればもっと効率的にやれる、必要であれば県議会から国への要望もするし、他の自治体に骨髄バンクを応援する議連があれば連携したいとの力強い発言がありました。

コロナが収まり宿泊付きのブロックセミナーが再開できる日を楽しみにしています。(東北地区担当理事 菅早苗)



千葉

3年ぶりに「コンサートと落語会」開催



昨年11月26日(土)、コロナのため3年ぶりとなった骨髄バンクチャリティ「コンサートと落語会」を成田市文化芸術センターで、成田市様、新勝寺様、商店街の皆様、他多数の皆様のご支援を受けて、全国協議会との共催で開催しました。コロナ対策を十分に取り多くのお客様にお越しいただきました。

前半は千葉の会独自となっている「落語会」です。ドナー体験者でもある真打桂右女助師匠(写真左)と古今亭松ぼっくりさんにお腹の底から笑える囁をさせていただきました。

合間の対談では、右女助師匠の司会で松岡一成さん(移植体験者、TOKYO VERDYの3人制のバスケットボール選手)と樋口拓己さん(骨髄及び末梢血幹細胞提供者)に登壇いただきました。お客様からは「骨髄バンクのことが良く分かった」、「参加者の聞きたいことを司会がうまく引き出して満足でした」等の感想をいただきました。

後半は「ピアノ三重奏の調べ」で、

三戸素子さん(ヴァイオリン)、小澤洋介さん(チェロ)、高田匡隆さん(ピアノ)がベートーヴェン「大公」等を演奏くださいました。皆さん心に響く音楽を十分に堪能いただけたことと思います。(千葉骨髄バンク推進連絡会 会長 梅田正造)

兵庫

観客も入場クリスマスコンサート開催

姫路地区骨髄バンク推進センターが毎年主催していた骨髄バンク支援「クリスマスコンサート」は、6年前から若い世代の人たちに骨髄バンクを知っていただくため、播磨地区の高校生を対象としたコンテストに内容を変えて開催しています。

昨年12月25日(日)、アクリエひめじで開催しました。今回は、コロナ禍になってから久しぶりに観客の入場も可能としたコンテストとなりました。

当初12校の出場予定がコロナの影



響で3校が参加できませんでしたが、高校生の元気あふれる演奏の後、骨髄バンクについてのDVDを見ながら、担当者が入場者全員に配布した「チャンス」に基づき説明を行いました。

最後に、2022年コンテストで優勝した姫路市立琴丘高校の生徒さんが神戸新聞のインタビューを受け「18歳になったら親と相談してドナー登録を考えたい」と話してくださいました。

若い世代の人たちに骨髄バンクや献血の冊子を配布する機会が多くない中、これからもこのようなイベントを行っていききたいので、今年も多くの若い世代の方に参加していただけるクリスマスコンサートを計画していきます。

(姫路地区骨髄バンク推進センター 濱田恵子)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●12月21日～1月20日(敬称略)

●一般	現金 39,977円	現金 50,844円
株式会社エアネット	塩谷 泰人 現金 1,000円	株式会社 フクヤ 現金 260円
現金 572,400円	筒井 肇 現金 1,000円	札幌北楡病院 現金 5,600円
三井化学株式会社	日根 和美 現金 10,000円	イオン九州株式会社イオン都城店 現金 8,700円
現金 200,000円	本田 真奈美 現金 5,000円	設計工房 夢家 現金 3,000円
ちびつとワンコイン	大原記念倉敷中央医療機構(募金箱) 現金 12,705円	理想科学工業株式会社東京第一営業所 現金 1,041円
現金 200,000円	●こうのとりのマリン支援基金	ケンコウ調剤薬局 現金 9,657円
藤波 敬子 現金 10,000円	東京港南マリンロータリークラブ 現金 35,000円	●つながる募金
福島 光宏 現金 100,000円	●募金箱	株式会社 クスリのアオキ 現金 1,466,832円
秋田 智 現金 20,000円	株式会社 マルト商事 現金 72,632円	株式会社 ナルックス
竹内 翼 現金 5,000円	●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金	●キモチと。 現金 767円
陳 恵珍 現金 2,000円	東京港南マリンロータリークラブ	
匿名 現金 10,000円		
匿名 現金 1,000円		

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会